

**秋田内陸線「夢列車プロジェクト」を“シェア”で応援！  
日本の鉄道を応援する「YELL for 鉄道JAPAN」第4弾 開始  
秋田内陸線の車両リニューアルに向けて、1シェア=5円の募金活動を実施**

乗り換え案内サービス「駅すばあと」を提供する株式会社ヴァル研究所（本社：東京都杉並区、代表取締役：太田信夫）は2017年6月7日（水）より、日本の鉄道を応援するプロジェクト「YELL for 鉄道JAPAN」第4弾として、地域の大切な交通手段であり、重要な観光資源でもある秋田内陸縦貫鉄道および「秋田内陸線夢列車プロジェクト」を応援します。



「YELL for 鉄道JAPAN」は、「鉄道が正常に走ることにより、人々の日常が支えられている」という考えのもと、日本の鉄道を応援するプロジェクトです。

4回目となる今回は、秋田内陸縦貫鉄道（以下、秋田内陸線）と、秋田内陸線の車両リニューアルに向けて活動している「秋田内陸線夢列車プロジェクト」を応援し、SNSを活用した募金活動、情報発信を実施します。

**■ 「YELL for 鉄道JAPAN」第4弾について**

プロジェクトサイトをTwitter・Facebookにシェアしていただくと、1シェアにつき5円をヴァル研究所が「秋田内陸線夢列車プロジェクト」に寄付します。寄付金は「秋田内陸線夢列車プロジェクト」を通じて、老朽化が著しい秋田内陸線の車両1両のリニューアル費用に活用されます。シェア数が増えれば増えるほど、リニューアルできる範囲が広がり、秋田内陸線に素敵な車両を走らせることができます。

また、プロジェクトサイトではシェアによる募金を受け付けるとともに、秋田内陸線と「秋田内陸線夢列車プロジェクト」の現状や課題、今後の展開の紹介や、美しい沿線・列車の写真などのコンテンツを掲載し、情報発信も行っています。

プロジェクト名 : 「YELL for 鉄道JAPAN」第4弾 秋田内陸線を応援しよう！

プロジェクト期間 : 2017年6月7日（水）～2017年9月1日（金）

プロジェクトサイト : [https://ekiwor1d.net/personal/app/eki/campaign/train\\_pj/](https://ekiwor1d.net/personal/app/eki/campaign/train_pj/)

**【本リリースに関するお問い合わせ先】**

株式会社ヴァル研究所 ソリューション事業部 広報担当：福井 滯菜  
TEL : 03-5373-3529 FAX : 03-5373-3510 MAIL : [pr-office@val.co.jp](mailto:pr-office@val.co.jp)

## ■秋田内陸線について (<http://www.akita-nairiku.com/>)

秋田内陸線は、秋田内陸縦貫鉄道株式会社が運行している 94.2km の第三セクター鉄道です。秋田県内陸部の鷹巣（たかのす）駅と角館（かくのだて）駅を結ぶ、地域住民の大切な交通手段であり、県南・県北の観光地を結ぶ貴重な観光路線、観光資源でもあります。

鉄道ファンや写真家の人気を集める山里・渓谷の美しい沿線景色、萱草（かやくさ）駅—笑内（おかしない）駅間にある赤い鉄橋「大又川（おおまたがわ）橋梁」など、路線自体にもさまざまな魅力があり、最近では海外からの観光客も大幅に増えています。

一方、人口減少地帯を走っていることもあり、年間約 2 億円の赤字を県と沿線自治体が負担している厳しい状況です。また、車両の老朽化が著しく、安定した運行のためには車両の更新が緊急の課題です。

地元銀行のシンクタンクの調査では、秋田内陸線の観光利用客による経済波及効果は約 6 億 6 千万円と推計されており、路線のさらなる有効活用や、観光客に対応するための新しい車両の導入が求められています。



## ■「秋田内陸線夢列車プロジェクト」について (<http://www.yumeressya.com/>)

「秋田内陸線夢列車プロジェクト」は、秋田内陸線に新しい車両を寄付すること、そして新しい車両のコンセプトやデザインなどを多くの人々と語り合うことによって、人々が秋田内陸線を「自分ごと」として認識し、地域の未来・ビジョンを描いていくことを目的に活動されています。

2015年6月6日（土）～2017年6月5日（月）までの2年間、新車両の購入を目指し、1億5千万円を目標に募金活動を実施しました。北海道や首都圏、関西からも寄付が寄せられましたが、目標額には届かず、新車両購入は断念されました。

現在は集まった寄付金をもとに既存のディーゼル車1両をリニューアルする方向で秋田内陸線と協議しており、プロジェクトはリニューアル工事が終わる来年3月頃まで継続されます。



## <プロジェクト実行委員会 事務局 大穂耕一郎氏からのメッセージ>



車両の老朽化が進む秋田内陸線に新しい車両を走らせようと、2年前に始めた「夢列車プロジェクト」は、これまでに1,400万円を超える寄付が集まりましたが、集まっているのは寄付金だけでなく、ローカル鉄道を支えようとする多くの皆さんの気持ちだと思います。

沿線の小さな集落で、寄付を募るコンサートに、「歩ける者は全員来たよ」と笑った自治会長さん、「毎年、マラソンでお世話になっているから」と添え書きをくださったランナー、駅の募金箱に小銭をいっぱい入れてくれた小学生……。皆さんの気持ちをいっぱい集めて、秋田内陸線は走ります。よろしく願いいたします。

## ■「YELL for 鉄道 JAPAN」の想い

日本の鉄道は、全国に路線網が整備され、大量輸送を実現する運行本数の多さや、ダイヤに沿った正確性、安心安全な高速移動を可能にする緻密な制御、誰もが当たり前利用できるための設備・サービスなど、世界に誇るべきものの1つです。

いまや生活インフラとして当たり前存在する「鉄道」が、その裏でどれほどの努力を重ね、苦況を乗り越えてきたのか、私たちは普段の生活の中で考えることはあまりありません。

本プロジェクトを通じ、鉄道の凄さや、地域の大事な交通手段でありながら苦況に立たされている地方鉄道の現実、観光資源や趣味の対象、思い出の象徴にもなる「鉄道」の魅力を発信していくことで、皆さまに「鉄道」を意識していただくきっかけにしたいと考えています。

## ■株式会社ヴァル研究所について

1988年にMS-DOS版の経路検索システム「駅すぱあと」を発売して以降、全国の公共交通機関データと高い信頼性をベースにさまざまな法人向け、個人向け製品・サービスを展開しています。

主力となる法人向けでは、通勤費管理／申請システムやビジネス・サポートサービス「RODEM」などを提供しており、12万社以上を顧客に持ちます。また、近年は「駅すぱあと」の膨大なデータや機能をAPIとして提供し、企業・団体との共創・コラボレーションに取り組んでいます。

商号 : 株式会社ヴァル研究所

代表取締役 : 太田 信夫

所在地 : 東京都杉並区高円寺北 2-3-17

設立年月日 : 1976年7月26日

資本金 : 4,100万円

企業サイト : <https://www.val.co.jp/>

※記載されている会社名、製品・サービス名は各社の登録商標または商標です。

※仕様や提供内容については予告なく変更となる場合があります。

### 【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社ヴァル研究所 ソリューション事業部 広報担当 : 福井 滯菜

TEL : 03-5373-3529 FAX : 03-5373-3510 MAIL : [pr-office@val.co.jp](mailto:pr-office@val.co.jp)